

「高校生価値意識調査2014」の調査結果に対する リクルート進学総研所長 小林浩の見解

リクルートでは2007年から、高校生の価値観、将来観、ライフデザインの考え方などを聞く、高校生価値意識調査を実施しています。今年の調査結果からイマドキの高校生の社会観・将来観を分析、社会環境の変化を大きく受けて揺れ動く、高校生の価値観の変化が見えてきます。

<POINT>

1) キーワードで見る、高校生の価値観・将来観の推移

- 2007年 「夢の価値暴騰」 …やりたい事や夢がないと進学先が選べない
 …リーマンショック
- 2009年 「身の丈志向」 …不況の中、好きなことを仕事にし、人並みに過ごしたい
 …東日本大震災
- 2012年 「自分軸から、他人軸へ」 …好きなことではなく、資格取得など安定した人生設計を重視したい
 …アベノミクス、東京オリンピック決定

2014年 「シェアハウス型コミュニティ」

景気回復の兆しを受けて、将来不安が減少。大人になるころの社会、自分自身の未来も2年前に比べ少し明るく。受ける教育は「ゆとり教育」から「脱ゆとり教育」への移行世代。SNSなどのITツールで常に誰かとつながるなかで、自己主張はほどほどに、仲間と家族などの絆(空気)を大切に。すべてはオープンにせず、部分的に生活や価値観を共感するシェアハウスのようなコミュニティ(コミュニケーション)を構築する世代。

2) 持っている能力は「チームワーク」、不足しているのは「前に踏み出す力」と「考え抜く力」

経産省が定義する『社会人基礎力』の項目に合わせて、「これから必要とされる力」と「現在持っている能力」を聞き、その差を見た。持っている力で強かったのは、「チームで働く力(チームワーク)」に関する項目であった。一方、必要とされているが持っていない力は「前に踏み出す力(アクション)」「考え抜く力(シンキング)」に関する項目であった。規律を重視し、他人との意見・関係にバランスを取りながらも、自ら創造的に考えて、行動する実行力に欠けると自分たちの能力を分析していることが分かった。

※差とは「これから必要とされる力(3つまで回答)」-「現在持っている能力(複数回答)」としている為、参考値

リクルート進学総研 所長 小林 浩 (こばやし ひろし)

<プロフィール>

1988年(株)リクルート入社。早稲田大学法学部卒。グループ統括担当や、『ケイコとマナブ』商品企画マネジャー、大学ソリューション営業、社団法人経済同友会出向(教育問題担当)、会長秘書、大学ソリューション推進室長などを経て、2007年4月より現職。文部科学省中央教育審議会 高大接続特別部会臨時委員。現、リクルート進学総研所長 兼、『リクルートカレッジマネジメント』編集長



<リクルート進学総研とは> URL : <http://souken.shingakunet.com/>

高校生、進路選択に関する調査研究機関として、以下の活動を行っています。

- ・全国の大学、短期大学、専修学校など、高等教育機関の経営層向けの専門誌『カレッジマネジメント』の発行
- ・高校の先生を読者対象とする進路指導、キャリア教育の専門誌『キャリアガイダンス』シリーズの発行
- ・高等教育機関、高校生、進路選択に関する各種調査の実施や社外に向けての情報発信

<取材にお答えできます>

- ・大学をめぐる政策動向全般について
- ・高校生の進路や将来についての価値観・大学のブランド力
- ・高校生、保護者、高等教育機関についての各種データ・マーケット動向や事例など、高校生~大学経営まで教育に関わる内容について幅広くお答えします。

【本件に関するお問い合わせ】 https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

【本調査リリースの全文】 <http://souken.shingakunet.com/research/>

「社会人基礎力」とは

平成18年2月、経済産業省では産学の有識者による委員会(座長:諏訪康雄法政大学大学院教授)にて「**職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力**」を下記3つの能力(12の能力要素)から成る「**社会人基礎力**」として定義づけ。

図1

<3つの能力/12の能力要素>

※数値は「必要だと思う能力」(3つまで回答)から「現在持っている能力」(複数回答)引いた差

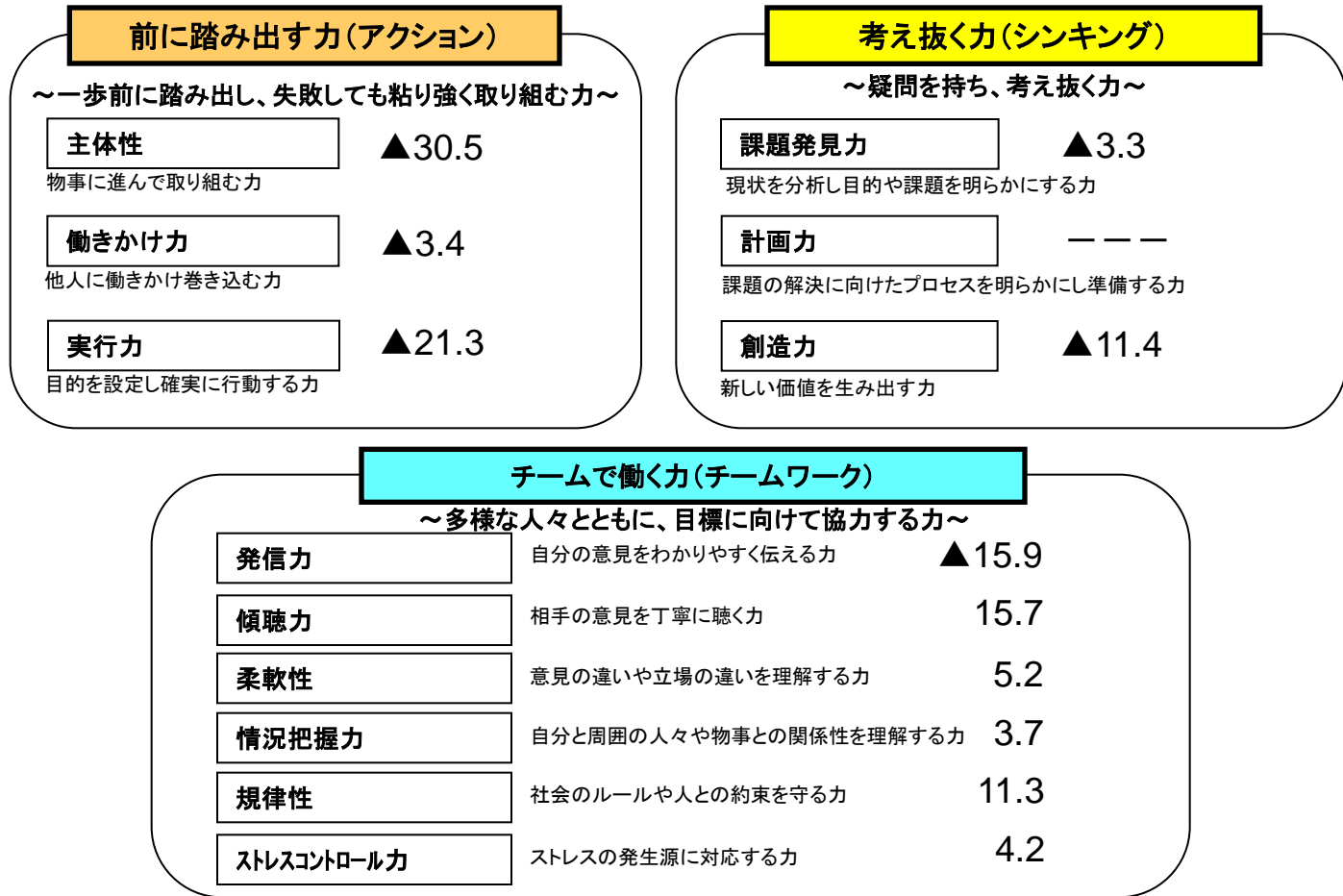


図2

■社会人になるころの社会の明るさ (全体/単一回答)

凡例	明るい口計		明るくない口計		無回答	明るい・計	明るくない・計
	明るい	やや明るい	あまり明るくない	明るくない			
▼時系列 結果							
2014年 全体 (n=1438)	10.0	38.5	41.2	10.3	—	48.5	51.5
2012年 全体 (n=1239)	6.3	24.7	51.0	18.0	—	31.0	69.0
2009年 全体 (n=1273)	14.5	24.5	44.5	16.2	0.2	39.1	60.7

■自分自身の将来の明るさ (全体/単一回答)

凡例	明るい口計		明るくない口計		無回答	明るい・計	明るくない・計
	明るい	やや明るい	あまり明るくない	明るくない			
▼時系列 結果							
2014年 全体 (n=1438)	15.0	48.7	30.8	5.5	—	63.7	36.3
2012年 全体 (n=1239)	15.4	39.9	36.0	8.7	—	55.3	44.7
2009年 全体 (n=1273)	30.6	44.0	20.8	4.3	0.2	74.6	25.2